

熊本市 感染症発生動向調査 速報

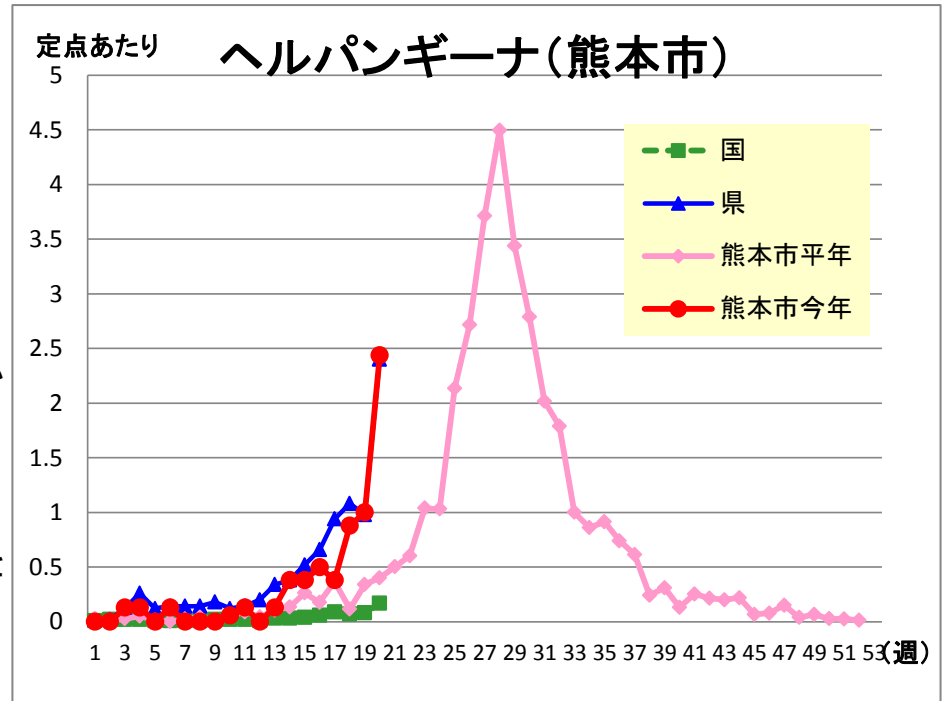
現在の流行状況

ヘルパンギーナが増えています！

先週の報告数16件から今週は39件と急増しました。
 ヘルパンギーナは夏に流行する小児の急性ウイルス感染症で、いわゆる夏かぜの代表的疾患です。
 2～4日の潜伏期の後、突然の発熱で始まることが多く、口の中に小さな水疱や浅い潰瘍ができ、痛みます。ほとんどの場合経過は良好ですが、まれに髄膜炎や心筋炎を起こすことがあります。特に、ぐったりしている、強い頭痛・嘔吐を伴う発熱が2日以上続く、などが見られた場合は医療機関を受診するようにして下さい。

原因となるウイルスにはいくつかの型があり、何度かかかってしまうことも珍しくありませんので、予防対策をしっかりと行いましょう。

ウイルスは、患者の鼻水や唾液、便などに存在し、回復しても数週間は、便中にウイルスが排出されます。一般的な予防は手洗いをしっかりとすること、排泄物を適切に処理することです。外出後、食事の前やトイレの後には、流水と石鹸で十分に手を洗い、タオルの共用はしないようにしましょう。



期 間		第19週		第20週	
		5/5～5/11		5/12～5/18	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	→	18	0.72	18	0.72
RSウイルス感染症	→	1	0.06	1	0.06
咽頭結膜熱(プール熱)	↑	3	0.19	6	0.38
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	18	1.13	44	2.75
感染性胃腸炎	↑	103	6.44	152	9.50
水痘(みずぼうそう)	→	10	0.63	14	0.88
手足口病	→	29	1.81	29	1.81
伝染性紅斑(りんご病)	→	0	0.00	0	0.00
突発性発疹	↑	8	0.50	18	1.13
百日咳	→	0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ	↑	16	1.00	39	2.44
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	→	1	0.06	2	0.13
急性出血性結膜炎	→	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	→	17	3.40	21	4.20
細菌性髄膜炎	→	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	→	0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎	→	1	0.20	1	0.20
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	→	0	0.00	1	0.20
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→	6	1.20	2	0.40